

## 情報教育推進の取組について

奈良県立桜井高等学校 中川 賀照

### 1 実践内容

本校の学習情報部の役割には、主に書籍などの紙面情報を中心とする図書館活動などの充実、及び ICT を活用した情報教育の推進などの二つがあり、生徒の主体的な学習を支援するための情報や場の提供を行っています。

平成 16 年度に当該部長になってからの 6 年間の取組を、次に紹介したいと思います。



#### (1) 図書館活動の充実を目指して

- ① すべての学習の基盤となる読解力の向上を目標に、平成 17 年度より「総合的な学習の時間」を活用した「朝の読書」を、年 2 回（各 1～2 週間）実施しています。同時に、新書などをパックにした「貸出文庫」を全クラスに設置して、本を身近に感じられるようにするなど、読書習慣の確立を目指しました。
- ② 図書委員会の活性化及び生徒の図書館活動への関心を高めるため、平成 17 年度より文化祭で「ブックバザー」を開催していますが、その売り上げ金から生徒の希望図書を毎年約 1 万円分購入することができています。

#### (2) 情報教育の推進について

- ① 平成 18 年度に、5 年に一度の機種更新の時期を迎えました。情報教育を推進するための重要な機会と捉え、全教職員の意見や希望をまとめ、次の三つに重点を置いた校内ネットワークシステムを構築することにしました。

- 校内の何処でも、ICT を使った授業ができるようにする。
- 教員用と生徒用のサーバ及び回線を分け、セキュリティを強固にする。
- コンピュータ室を、機能的に運用できるようにする。

具体的には、インターネットや校内ネットワークに接続できるようにしたノートパソコン（20 台）とプロジェクター・スクリーン（5 セット）を整備し、校内の何処でも、そして何時でも ICT の授業が展開できるようにしました。

- ② 最近では、広報としてのホームページの役割が大きくなりましたが、本校でも平成 14 年度の公開以来、地域や保護者に学校の教育方針や生徒の活動状況などをリアルタイムで伝えるため、常に最新の情報を発信するように努めてきました。

例えば、ホームページの更新が円滑に行えるよう ▲ 学校案内パンフレットの表紙



に、新しい起案様式を作成したり、写真や文書のデータ化や一元化、共有化などを図ったりするなどの工夫をしてきました。

また広報活動の一つとして、新聞や情報機関誌へ情報の提供などがありますが、平成 16 年度の創立 100 周年では、同窓生の紹介を入れた学校案内パンフレットを作成し、さらに今年度は中学生とその保護者向けに、「手に取って見たくなる、見たら行きたくなる」のコンセプトのもと、教職員にも撮影の協力をしてもらい、生徒の活動風景がたくさん載った小冊子形式の案内パンフレットを作成することができました。

- ③ 本校では、早くからコンピュータ活用推進委員会を設置し、コンピュータ使用規定やインターネット接続のためのガイドづくり、職員研修の内容検討などを行っています。

最近実施した職員研修の内容は、平成 17 年度「情報機器を活用した授業の公開」、平成 18 年度「機種更新に伴う新しい施設とシステムの運用」、平成 19 年度「文書等の管理に関する規定の設定とデータファイルの暗号化等」などで、主に教職員の情報教育に対するスキルアップを目的に実施しました。



▲ 情報教育に関する職員研修

## 2 成果及び課題

### (1) 図書館活動の充実について

「朝の読書」「貸出文庫」「ブックバザー」「読書会」等の取組によって、利用者数が増え、貸出冊数も 6 年前と比較して 35 % 増加するなど、読書の習慣化のきっかけづくりになりました。今後は、図書委員会活動の一層の活性化と、そのための指導体制の整備が課題であると考えています。

### (2) 情報教育の推進について

私が美術を担当していることもあり、数年前からホームページに美術・音楽の生徒作品を発表してきましたが、体育や特別活動などでも少しずつ ICT を活用した取組が広がっています。

学習指導要領に準拠した新しい教材の開発や、教員の実践へのモチベーションの向上などが、今後の大きな課題であると考えています。

## 3 その他参考となる事項

校外からの評価の一例として、次の受賞や誌面紹介などを紹介しておきます。

- ① 「実践事例アイデア集 2007」(70 事例) 美術科「リレーアニメ」(日本教育工学振興会主催 H18)
- ② 「奈良県立学校情報発信グランプリ」ホームページ部門 優秀賞 (県教育委員会主催 H19)
- ③ 「実践事例アイデア集 2009」、学校全体での取組 (全国 6 校) 学校賞及び (60 事例) 音楽・美術「Web アートコラボ」 (日本教育工学振興会主催 H20)